

(原文 URL : <https://mailchi.mp/theibta/rcolorsyeg-2299294>)

IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター

2021 年 4 月号

【トップニュース】

2021 年国際脳腫瘍啓発週間

今年の「国際脳腫瘍啓発週間」は、2021 年 10 月 30 日(土)から 11 月 6 日(土)までとなる。2007 年に IBTA が制定した祝賀イベントであるこの 1 週間は、世界中の脳腫瘍コミュニティが一丸となり、脳腫瘍における課題および研究推進の必要性について目を向けてもらうため、啓発活動を展開する。IBTA の啓発活動については[こちら](#)。

新たに多言語に翻訳された「脳腫瘍患者の権利憲章」がオンラインで公開

IBTA「脳腫瘍患者の権利憲章」が更に多くの言語へと翻訳された。2020 年 7 月に発表された権利憲章は、世界中の脳腫瘍患者にとって極めて重要な文書となり、90 以上の患者団体や医学会などにより支持され、現在以下の言語の翻訳版がダウンロード可能である:カタロニア語、中国語(繁体字および簡体字)、デンマーク語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、イタリア語、日本語、ポーランド語、ポルトガル語、スペイン語。翻訳版作成にボランティアとして協力してくれた世界中の仲間に感謝の意を表す。本憲章の多言語版は、[こちら](#)から。付属のツールキットやその他の情報を含んだ英語版は、[こちら](#)から。憲章を他の言語に翻訳して下さる方は、kathy@theibta.org まで。憲章翻訳者のためのガイドラインは[こちら](#)。

5 月はグレーに

5 月 1 日は、米国、カナダ、ポルトガル、オーストラリア、ドイツ、ニュージーランドなど、世界のさまざまな国で脳腫瘍に関する啓発普及活動が行われる特別な月の始まりとなる。各国の脳腫瘍団体は、様々な市民参加型イベントや募金活動を行っている。これらの地域にお住まいの方は、「Brain Tumour Awareness Month(脳腫瘍啓発月間)」で検索、または、地元の脳腫瘍団体に連絡して活動内容や参加方法を確認して下さい。米国での 5 月の活動は[イベントカレンダー](#)へ。

1884 年に行われた画期的な神経膠腫手術に関する IBTA 発行冊子が www.issuu.com で入手可能に

IBTA は、1884 年 11 月 25 日に英国ロンドンで行われた「現代の脳腫瘍手術として初めて記録された神

経膠腫手術」に関する冊子を 2009 年に発行した。2009 年に Rickman John Godlee 博士が John Mitchell という青年に行った画期的な脳腫瘍手術から 125 周年を迎えた。本冊子には、この手術に関する未発表の資料が含まれている。2009 年に、歴史的な手術を記念して、限定数の冊子が印刷・配布された。嬉しいことに、本冊子は issuu.com からオンラインで無料入手できるようになった。

欧州がん診療規約 - 主要論文を発表

欧州において、国、地域、病院、コミュニティにより、がん医療の質および患者の転帰に格差があることから、患者擁護団体とがん専門家グループが、[欧州がん機構](#)を通じて「[欧州がん診療規約](#)」を共同で作成した。本規約には、すべての患者が医療に期待すべき 10 種の重要な包括的権利が含まれ、臨床ガイドライン、医療政策および患者の日々の経験との間のギャップを埋めることを目的としている。本規約は、高いエビデンスに基づいており、ヨーロッパの患者および専門家のがん団体から広く支持されている。IBTA 会長、Kathy Oliver は、*Journal of Cancer Policy* 誌(フリーアクセス)に掲載された本規約の共著者の一人である。[続き](#)を読む。

【治療関連ニュース】

脳腫瘍または白血病と診断された小児のコミュニケーションおよび嚥下に関する新しい臨床ガイドラインを発表

小児がんで最も多い 2 つの疾患、脳腫瘍または白血病の治療を受けた小児の最大 80%がコミュニケーションに問題を抱えており、これらの問題は治療後数カ月、あるいは数年経ってから生じることもある。オーストラリアのシドニー大学は、脳腫瘍または白血病の治療を受けた小児および青年の発話・嚥下障害を医療従事者が観察および管理するためのエビデンスに基づく新しいガイドラインを発表した(全文は[こちら](#))。6 カ国語に翻訳され、オーストラリア国立健康医学研究評議会(NHMRC)の承認を受けた本ガイドラインは、小児脳腫瘍または白血病の診断後、できるだけ早くコミュニケーションおよび嚥下障害の評価と介入の両方を行うべきであるという重要な推奨事項に裏打ちされている。[続き](#)を読む。

中枢神経系腫瘍の管理に関するガイドラインの更新版を発表

中枢神経系腫瘍の管理に関する最新のガイドラインが *Journal of Neuro-Oncology* 誌に掲載された。本ガイドラインは、設立 35 周年を迎えた[米国脳神経外科医会\(CNS\)](#)と[米国脳神経外科学会\(AANS\)](#)の[腫瘍に関する合同部会](#)によって、最新の臨床に関するエビデンスを用いて作成された。今回の更新では、非機能性下垂体腺腫、低悪性度神経膠腫、前庭神経鞘腫、転移性脳腫瘍について、過去 5 年間に作成されたガイドラインがまとめられている。[続き](#)を読む(全論文)。

【研究ニュース】

米国食品医薬品局 (FDA) が、有望な生存率を示した再発膠芽腫に対する免疫療法 ERC1671 の第 2 相試験短縮および第 3 相試験開始を推奨

米国食品医薬品局 (FDA) は、現在進行中の 84 名の患者を対象とした ERC1671 と名付けられた免疫療法の第 2 相試験を早期に中止し、ランダム化第 3 相検証的試験を開始すべきであると勧告した。患者本人の腫瘍細胞と別の患者の腫瘍細胞を用いて抗腫瘍免疫反応を高める作用を持つ本免疫療法は、化学療法薬シクロホスファミド、免疫システムを刺激する GM-CSF (顆粒球-マクロファージコロニー刺激因子)、および腫瘍への血液供給を標的とするペバシズマブ (販売名: アバスタチン) と併用する。ヒストリカルデータ (過去の臨床試験や患者レジストリなどからのデータ) から予測される生存期間が 5.3 カ月であったのに対して、本併用療法を受けた患者の平均生存期間は 11 カ月であった。[続き](#)を読む。企業プレスリリースは[こちら](#)。

新しい脳腫瘍治療の検証に使われる「マウスモデル」に疑問を呈する研究結果

Nature Communications 誌に掲載された研究は、新しい治療法の早期検証の目的で、(患者由来異種移植片 [PDX] を作成するために) 培養してマウスに移植された腫瘍細胞サンプル (細胞株) の多くが、過去にマウスウイルスに感染していることを明らかにし、こうした細胞株がヒトの病態を忠実に再現するのか疑問を呈している。今回、遺伝子解析を行った 184 の PDX サンプルのうち、膠芽腫に対する研究で使用された細胞株を含む 170 の PDX サンプルに、少なくとも 1 つのマウスウイルスの全 DNA 配列がみられた。これらの知見は、PDX を用いる実験において品質管理に注意を払う必要があることを示唆していると、著者らは述べている。[続き](#)を読む。

膠芽腫に対するテモゾロミド投与は、夜よりも朝の方が効果的である可能性を臨床試験が示唆

Neuro-Oncology Advances 誌に掲載された研究が、テモゾロミド化学療法を朝に受けた膠芽腫患者は、夜に受けた患者よりも良好な経過をたどることを示唆する予備的エビデンス (診断後の生存期間 17 カ月対 13.5 カ月) を示した。本研究では、米国ミズーリ州 Barnes-Jewish 病院および Washington 大学医学部 Siteman Cancer Center にて、2010 年 1 月から 2018 年 12 月の間に膠芽腫と診断された患者の経過を分析し、テモゾロミドを朝に処方された患者と夜に処方された患者の治療成績を比較した。今回の発見は、体内時計が治療結果に与える影響を調べる (「時間医学」と呼ばれる) 大規模な脳腫瘍臨床試験の基礎となるものだと著者は述べている。[続き](#)を読む。

米国で治療を受ける膠芽腫患者間の人種・民族的格差に関する研究報告

Journal of Neuro-Oncology 誌に、米国国立がんデータベースに含まれる 40 歳以上の膠芽腫患者 68,979 人のデータを解析した研究が掲載され、非ヒスパニック系黒人およびヒスパニック系患者は、非ヒスパニック系白人と比較して、放射線療法および化学療法を受けることが少なく、放射線療法および化学療法を開始するまでの期間がそれぞれ約 2 日および 4 日長いことが明らかになった。Practice Update に掲載された本研究の短い要約 (Take-home message) は「これらの知見は、人種・民族が膠芽腫患者の生存率に大きく影響することを示しており、関連する仕組みを解明する追加研究の重要性を強調するものである」と記している。[続きを読む](#)。

妊娠中の農薬散布地の近隣居住と、小児脳腫瘍の関連性を研究結果が発表

Environmental Research 誌に掲載された観察研究によると、妊娠中に多種多様な農薬への暴露があった女性から生まれた子供は、脳腫瘍発症のリスクが高い可能性があるという。研究者らは、米国カリフォルニア州のがん登録データを用いて、1998 年から 2011 年の間に生まれ、農村部に住む、脳腫瘍および脊髄腫瘍を有する 667 人の小児と、年齢が一致して腫瘍のない 123,000 人以上の小児を対照群として比較した。農薬散布地から 4km 以内に住む母親から生まれた小児に、びまん性星細胞腫、髄芽腫、上衣腫のリスクが高く、特定の農薬が腫瘍の種類と関連することが明らかになった。[続きを読む](#)。

変異型 IDH1 タンパク質を標的とする神経膠腫ワクチンの良好な第 1 相試験結果を報告

大多数のびまん性神経膠腫にみられる、変異型 IDH1 タンパク質を標的としたワクチンを検証した臨床試験結果が、*Nature* 誌に掲載された。IDH1 変異を有する WHO グレード III/IV の初発退形成星細胞腫患者 32 人に対して従来の化学療法と放射線療法に加えてワクチンを投与したところ、ほぼ全員 (93%) にワクチンに対する免疫反応がみとめられた。また、大多数の患者に「偽性進行」(画像上では腫瘍の進行の様な変化が見られるが、実際には疾患の進行以外の原因によるもの) がみられたが、重篤な副作用は報告されなかった。ワクチンに免疫反応を示した患者のうち、82% の患者が 3 年の試験期間中、腫瘍の進行がみとめられなかったことから、研究者らはワクチンのさらなる検証のため、第 2 相試験を計画している。[続きを読む](#)

再発膠芽腫を対象とした免疫療法薬併用療法の第 1 相試験で有望な早期結果

4 月 10 日から 15 日までバーチャル形式で開催された、米国がん学会 (AACR) 年次総会 2021 にて発表された[早期の研究結果](#)によると、免疫療法である「チェックポイント阻害剤」アテゾリズマブと試験薬イパタセルチブ (AKT 阻害剤) を併用した[第 1 相試験](#) (Ice-CAP) に最初に登録された再発膠芽腫患者 10 名のうち、2 名に治療反応がみとめられた。1 名の患者 (59 歳男性) は、22 カ月後に完全奏効を示し、「疾患の証拠は見られない」。[続きを読む](#)。

小児高悪性度神経膠腫を対象としたヘルペスウイルス免疫療法の第 1 相試験で有望な結果

The New England Journal of Medicine 誌に掲載された第 1 相臨床試験の結果によると、G207 腫瘍溶解性ウイルス(脳腫瘍細胞のみに感染して死滅させるように遺伝子操作された口唇ヘルペスを起こすウイルス)による、再発高悪性度神経膠腫の小児および思春期・若年成人患者に対する試験的な治療は、安全であり、免疫システムを刺激して脳腫瘍を攻撃することに成功したという。一般紙でも広く報道されている通り、予想生存期間が 5.3 カ月であったのに対し、本試験で、7 歳から 18 歳までの 12 名の患者の平均生存期間が 12.2 カ月であった。また、18 カ月の時点で、11 名の患者のうち 4 名の生存が確認された。[続き](#)を読む。

膠芽腫が免疫システムを操作して増殖する仕組みを解明

Nature Communications 誌に掲載された研究によると、膠芽腫は、分子スイッチを作動させて腫瘍を攻撃するはずの免疫細胞群(マクロファージとミクログリア)を、他の免疫システムから腫瘍を防御する細胞に変えてしまうという。研究チームは、一連の非臨床試験を通じて、膠芽腫細胞から分泌される P-セレクチン(SELP)と呼ばれるタンパク質がこれらの免疫細胞に結合して、腫瘍を攻撃する他の免疫システムを沈静化する化学シグナルを発信させることを明らかにした。本論文の著者らは、脳腫瘍がしばしば免疫システムから隠れ、免疫療法にうまく反応しない理由を、このメカニズムによって説明できるのではないかと考えており、将来の治療法の新たな標的になる可能性があることを示唆する。[続き](#)を読む。

ビタミン様サプリメントが小児髄芽腫に対する化学療法の効果増強に有効であることを示唆する動物実験

Nature Communications に掲載された非臨床試験によると、イノシトール-6 リン酸(IP6)と呼ばれるビタミン様物質をシスプラチン化学療法と併用すると、小児髄芽腫の成長を抑制するという。一連の実験により、4 つの髄芽腫サブグループ(WNT、SHH、G3、G4)の中で最も多いグループ 4(G4)の髄芽腫で、BMI1 タンパク質が高発現、CHD7 タンパク質が低発現していることが明らかになった。この 2 つのタンパク質は、腫瘍細胞の DNA につく化学的目印を変化させ、酸素供給が欠乏した状態でもエネルギー生成が行えるようにする。本動物実験において、イノシトール-6 リン酸が、シスプラチンと共にこのプロセスを阻害し、腫瘍の成長を遅らせ、生存期間を延長したことが確認された。[続き](#)を読む。

乳幼児の脳腫瘍に関する最新の研究成果をまとめた論文を発表

Advances in Pediatric Neuro-Oncology 誌の特集号に、乳幼児の脳腫瘍に関する現在の科学的理解と最新研究成果をまとめた論文が掲載された。小児中枢神経系腫瘍の 10%未満を占める 1 歳未満の脳腫瘍は、小児期以降に発生した脳腫瘍とは異なる特徴や挙動を示すため、異なる治療法が必要となる場合がある。本総説では、乳幼児脳腫瘍の診断と治療における最近の進歩を、特に分子的全体像と、将来の臨床応用の可能性に焦点を当てて紹介している。[続き](#)を読む。

小児びまん性内在性橋膠腫(DIPG)の新薬をマウスで検証

抗マラリア薬キナクリンを基に開発された新しい抗がん剤 CBL0137 が、動物実験において小児びまん性内在性橋膠腫(DIPG)の増殖を抑えるという研究結果が [Cell Reports](#) 誌に報告された。実験の結果、CBL0137 は、腫瘍細胞の DNA 複製に不可欠な FACT と呼ばれる重要な分子を阻害することで、がん細胞を死滅させることがわかった。CBL0137 が血液脳関門を通過することを確認した後、DIPG 腫瘍マウスに CBL0137 ともう一つの抗がん剤 パノビノスタット(がんの DNA 複製過程を標的とする)を併用投与したところ、腫瘍の成長を遅らせ、生存期間を延長した。[続き](#)を読む。

社会から取り残されたコミュニティにおける神経腫瘍治療の改善方法を考える

The Society of Clinical Oncology Educational Book 誌に掲載された論文は、米国において、他地域では神経腫瘍の治療が向上しているにも拘わらず、社会から取り残されたコミュニティが恩恵を受けられない問題を取り上げている。本論文では、臨床試験においてより多様な背景を持つ人々および人種の患者に参加してもらう必要性、コミュニティでのがん医療や遠隔医療によってそのような背景をもつグループからの参加者を増やす方法、さらに、このような枠組みの中で起こる人種差別、偏見、ステレオタイプの要因に対して教育により対処する方法など、実践的な応用例が示されている。[続き](#)を読む。

【企業ニュース】

Yumanity Therapeutics 社、膠芽腫に対する YTX-7739 の実験室レベルの肯定的な結果を発表

Yumanity Therapeutics 社は、同社の YTX-7739 とテモゾロミド化学療法の併用療法が、膠芽腫細胞に作用して膠芽腫マウスの生存期間を延長したという、非臨床試験結果を発表した。YTX-7739 が SCD という酵素を標的にすることで、膠芽腫細胞に飽和脂肪酸が過剰に蓄積され、DNA 損傷修復が阻害される。この研究成果は、バーチャル形式で行われた神経腫瘍学会(SNO)と米国国立がん研究所(NCI)のジョイントシンポジウムで[発表](#)された。詳細は[こちら](#)(企業プレスリリース)。

Vysioneer 社、人工知能を搭載した脳腫瘍に対する放射線治療計画支援システム VBrain の臨床使用を米国食品医薬品局(FDA)が認可したと発表

がん治療における人工知能(AI)に特化した Vysioneer 社は、米国食品医薬品局(FDA)が AI を搭載した腫瘍の自動輪郭形成技術「VBrain」を放射線治療計画作成に使用することを許可したと発表した。臨床データを用いてトレーニングされた VBrain システムは、放射線治療計画時に臨床医による脳腫瘍の正確な「輪郭抽出」(腫瘍の境界を正確にマーキングすること)を支援する。今回の米国食品医薬品局(FDA)による承認は、先月発行された [Neuro-Oncology](#) 誌に掲載された臨床研究によって裏付けられたもので、医療従事者が自動輪郭抽出技術を使用することで、より正確かつ効率的に脳腫瘍の輪郭を抽出できることが示された。詳細は[こちら](#)(企業プレスリリース)。

Kazia Therapeutics 社、中国でのパキサリシブ開発に合意したと発表

Kazia Therapeutics 社は、同社の治験薬パキサリシブを中華圏で開発・商業化し、中華圏の患者に提供するため、Simcere Pharmaceutical Group 社とライセンス契約を締結したことを発表した。パキサリシブは、膠芽腫の成長に重要な分子経路(PI3K / Akt / mTOR)を阻害する薬剤である。MGMT プロモーターがメチル化されていない初発膠芽腫患者を対象としたパキサリシブの第 2 相試験では、生存率の改善を示唆する指標が示された。[続き](#)を読む(企業プレスリリース)。

Celularity 社、悪性神経膠腫に対するナチュラルキラー細胞療法 CYNK-001 を米国食品医薬品局(FDA)が希少疾病用医薬品に指定したと発表

Celularity 社は、同社のナチュラルキラー細胞療法である CYNK-001 が、悪性神経膠腫の治療薬として、米国食品医薬品局(FDA)により希少疾病用医薬品指定を受けたことを発表した。現在、膠芽腫患者に対する CYNK-001 による治療を検証する第 1 相臨床試験([NCT04489420](#))が行われている。希少疾病用医薬品指定により、適格な臨床試験に対する税額控除、申請費用の免除、米国食品医薬品局(FDA)の承認後 7 年間の市場独占権など、様々な開発インセンティブが付与される。詳細は[こちら](#)(企業プレスリリース)。

Moleculin 社の WP1066 が小児上衣腫を対象として希少小児疾患(RPD)治療薬指定

米国食品医薬品局(FDA)は、上衣腫の治療薬として、p-STAT3 阻害剤 WP1066 を希少小児疾患治療薬(RPD)に指定した。WP1066 は、活性化状態の STAT3 タンパク質に作用して、がん細胞を死滅させる薬剤である。本薬剤は、腫瘍細胞内で免疫システムによる腫瘍に対する攻撃を促進する。WP1066 が希少小児疾患治療薬に指定されたことにより、開発元である Moleculin 社は、最終的に本剤が承認された場合、優先審査の申請が可能になる。詳細は[こちら](#)。企業プレスリリースは[こちら](#)。

【脳腫瘍コミュニティのニュース】

英国の慈善団体が英国政府に対して、10 万人以上の署名と共に脳腫瘍研究費の「レベルアップ」を要請

英国を拠点とする慈善団体「Brain Tumour Research」は、英国政府に脳腫瘍研究への国からの投資を増やすよう求める[請願書](#)に 12 万人以上が署名したことを受け、「[Level Up and Stop the Devastation](#)」と題した報告書を発表した。本報告書では、請願書の背景にあるストーリーを、患者や介護者の感動的な証言とともに紹介している。詳細は[こちら](#)(Brain Tumour Research ウェブサイト)。

【イベント／学会ニュース(抜粋)】

※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

現在の COVID-19 パンデミックの影響で、世界中の多くの対面式の会議や学会が中止、延期、またはバーチャルイベントに変更されている。私たちはこうしたニュースに対応するよう最善を尽くしているが、予定されている会議の状況に関しては、必ず会議主催者に確認のこと。

2021 年の学術会議

5月

[2021 髄膜腫の日](#)

管理戦略の現状と将来の方向性についての神経腫瘍学会(SNO)教育ウェビナー(一日)

2021 年 5 月 15 日

オンライン

[米国がん学会\(AACR\)年次大会 2021\(第 2 週\)](#)

2021 年 5 月 17 日-21 日

オンライン

[がん研究 イギリス ケンブリッジセンター神経腫瘍学 学会 2021](#)

2021 年 5 月 18 日-19 日

オンライン

[欧州腫瘍学会\(eEANO\)ウェビナーシリーズ:再発膠芽腫](#)

2021 年 5 月 26 日

オンライン

[第 11 回脳腫瘍会議ベルリン](#)

2021 年 5 月 27 日-28 日

ドイツ ベルリン

6月

[2021 年米国臨床腫瘍学会\(ASCO\)年次総会](#)

2021 年 6 月 4 日-8 日

オンライン

[2021 神経腫瘍学会\(SNO\)小児科学会議一隔年開催 第6回小児神経腫瘍学 基礎および橋渡し研究学会](#)

2021年6月10日-12日

オンライン

[後頭蓋窩学会バーチャルメンバー会議](#)

2021年6月11日-12日

オンライン

[神経腫瘍治療後ケアに関する米国国立がん研究所脳脊髄希少がんネットワーク\(NCI-CONNECT\)シンポジウム](#)

2021年6月21日

オンライン

[脳腫瘍疫学コンソーシアム第22回年次総会\(BTEC 2021\)](#)

“脳腫瘍バイオマーカー:研究、臨床、患者登録のために”

2021年6月20日-24日

オンライン

[脳と脊椎転位に関するコロキウム](#)

2021年6月25日-26日

オンライン

[欧州腫瘍学会\(eEANO\)ウェビナーシリーズ:脳腫瘍の共局在における代謝脆弱性](#)

2021年6月30日

オンライン

7月

[英国神経腫瘍学会年次総会\(BNOS2021\)](#)

2021年7月8日-9日

オンライン

[脳腫瘍とその微小環境に関する基礎・橋渡しオミックス研究](#)

2021年7月15日-16日

オンライン

8月

[脳転移に関する第3回年次総会](#)

2021年8月19日-21日

カナダ トロント

[米国脳神経外科学会\(AANS\)2021年次総会:“脳神経外科の団結力を高める”](#)

2021年8月21日-25日

アメリカ フロリダ州オーランド

9月

[2021 欧州神経腫瘍学会\(EANO\)総会](#)

2021年9月25日-26日 (Educational day については10月参照)

オンライン

10月

[米国脳神経外科医会\(CNS\)2021年次大会](#)

2021年10月16日-20日

アメリカ テキサス州オースチン

[2021 欧州神経腫瘍学会\(EANO\)総会 Educational Day](#)

2021年10月23日

オンライン

[第13回 神経腫瘍学共同臨床試験グループ\(COGNO\)年次大会](#)

2021年10月24日-26日

オーストラリア メルボルン

ハイブリッドイベント(バーチャルでの参加あるいは会場での直接参加)

2021年または2022年に開催される脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議(バーチャルか対面かは問わず)を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、kathy@theibta.orgまで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTA ウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

==翻訳者: 為石万里子/JAMT(ジャムティ)翻訳チーム==

IBTA (国際脳腫瘍ネットワーク) について

私たちについて 国際脳腫瘍ネットワーク(The International Brain Tumour Alliance:IBTA)は 2005 年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibt.a.org をご覧ください。

ご意見をお聞かせください。IBTA コミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先: chair@theibta.org 月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

(免責事項)国際脳腫瘍ネットワーク(IBTA)は、e-News(あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等)に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。(スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください)。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。